

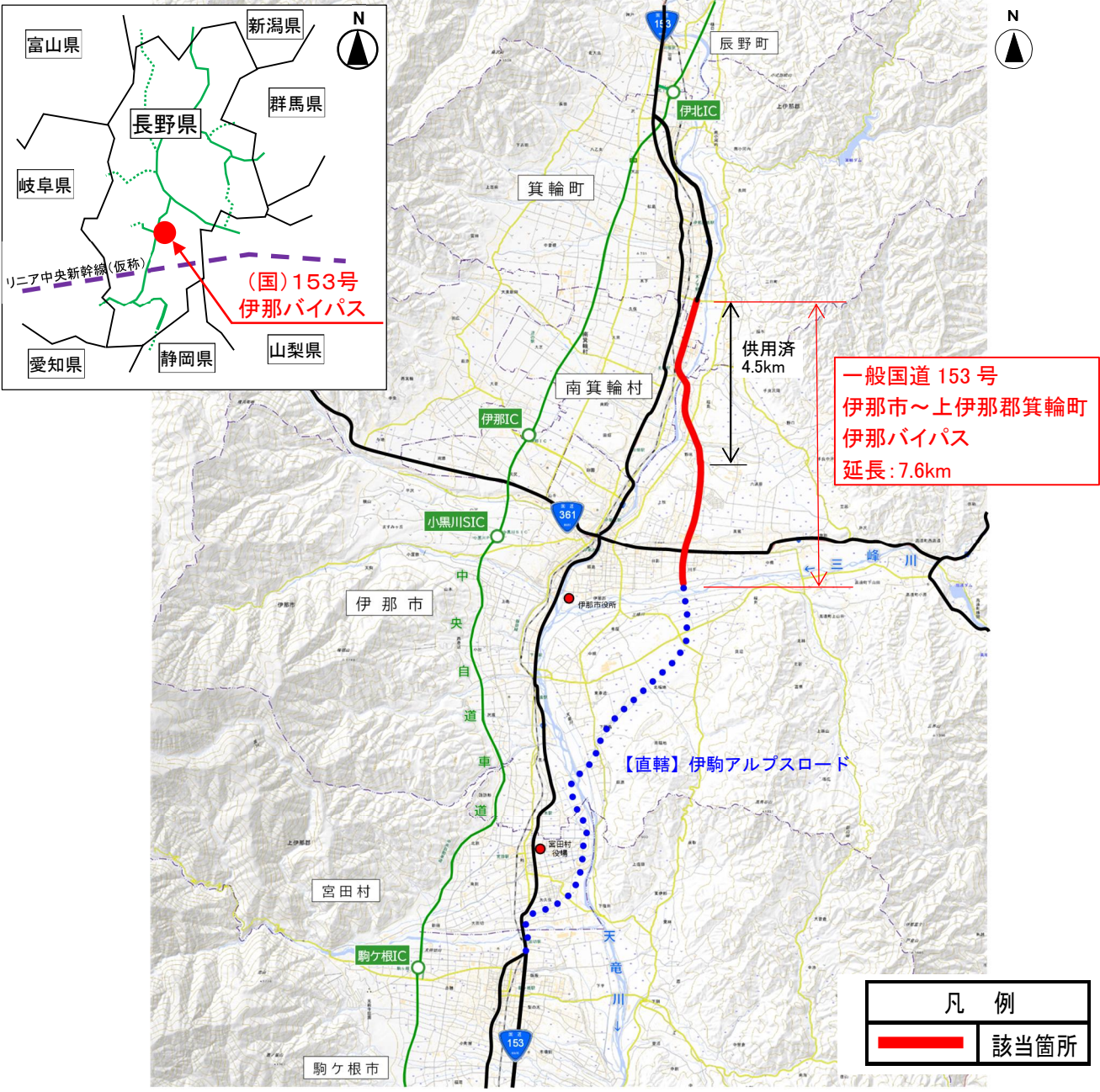
再評価結果(令和7年度継続箇所)

担当課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	重要物流道路 一般国道153号 伊那バイパス			事業区分	一般国道	事業主体	長野県
起終点	自：長野県伊那市日影 至：長野県上伊那郡箕輪町木下					延長	7.6km
事業概要							
一般国道 153 号は、政令指定都市である愛知県名古屋市から、長野県塩尻市に至る路線である 重要物流道路である一般国道153号の一部にあたる当該箇所を整備することにより、地方中心都市の飯田市、地方生活中心都市の伊那市、特に地域で重要な都市の塩尻市の間の平常時、災害時を問わない安全かつ円滑な物流を確保するものである。							
H9年度事業化		H8年度都市計画決定		H10年度用地着手		H12年度工事着手	
全体事業費		約327億円		事業進捗率	約78%	供用済延長	4.5km
計画交通量		26,700台／日					
費用対効果分析	B/C	EIRR	総費用		総便益		基準年
	(事業全体)	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)		(残事業)/(事業全体)		
	1.1		61/434 億円		318/472 億円		
	2.2 [2%]	3.9%	事業費：55 / 428 億円		走行時間短縮便益：310/451 億円		
	3.3 [1%]		維持管理費：6.2/ 6.4 億円		走行経費減少便益：6.9 / 19 億円		
	(残事業)	(残事業)	更新費：- / - 億円		交通事故減少便益：0.93/2.5 億円		
	5.2		(事業全体)		(残事業)		
	7.5 [2%]	14.4%	交通量	B/C=0.98～1.2(±10%)	交通量	B/C=5.1～5.7(±10%)	
(参考)	9.3 [1%]		事業費	B/C=1.00～1.2(±10%)	事業費	B/C=5.2～6.4(±10%)	
			事業期間	B/C=1.00～1.2(±20%)	事業期間	B/C=5.6～6.0(±20%)	
事業の効果等							
・ 現道の交通量は 14,658 台/日と多く、慢性的な渋滞が発生し、イライラ箇所に選定されている。特に通勤時の渋滞は激しく、円滑な交通に支障をきたしているため、当該箇所の整備により、交通の円滑化、交通混雑の緩和が図られる。 ・ 第三次救急医療機関（伊那中央病院）へのアクセス向上に寄与する。 ・ 中央自動車道の代替機能や第一次緊急輸送路としての機能を担い、平常時、災害時を問わない安全かつ円滑な交通の確保に寄与する。 ・ 現道は、交通量が多く、事故発生件数が多い。歩道未整備区間もあることから、通過交通の転換により現道沿線部の交通事故減少が期待される。 ・ 伊北 IC に直結し、工場誘致等による地域の経済発展に寄与する。 ・ 一般国道 153 号の機能強化を図ることで、高速道路と一体となって、リニア中央新幹線の整備効果を広く波及させる。							
関係する地方公共団体等の意見							
国道153号伊那バイパス期成同盟会から毎年、促進要望がある。							
事業評価監視委員会の意見							
県の再評価案（継続）を妥当と判断する。							

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
周辺環境等に特に変化はない。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
用地進捗率約76%、事業進捗率約78%	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
引き続き、早期開通に向けて事業を進める。	
施設の構造や工法の変更等	
引き続きコスト縮減に努めながら事業を推進していく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。	
事業概要図	



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)